

Windom の解答速報 昭和大学(医)Ⅱ期 英語

【解答】 総計 100 点

1 [小計 10 点(各 2 点×5)]

(1) E (2) D (3) D (4) D (5) D

2 [小計 20 点(各 2 点×10)]

(1) B (2) A (3) B (4) E (5) E (6) A (7) C (8) D (9) A (10) D

3 [小計 30 点(各 2 点×15)]

- (1) (あ) follow (い) fares
 (2) (う) attached (え) taken
 (3) (お) to (か) play (き) with
 (4) (く) in (け) common
 (5) (こ) Fuels (さ) release
 (6) (し) accusing (す) of
 * (し)を attacking として, (す)を for としても可。
 (7) (せ) run (そ) alternative

4 [小計 40 点]

(1) インフルエンザ・ウイルスは毎年変異するので, 翌年の対策を十分にとれないこと。(39 字)

[基準] 10 点[①3 点 ②③④各 2 点 ⑤1 点]

- ① 「インフルエンザ・ウイルス」 たんに「インフルエンザ」とした解答は 1 点減点。
 ② 「毎年」
 ③ 「変異する」
 ④ 「翌年の翌年の対策を十分にとれない」
 ⑤ 説明問題なので, 解答文の最後に「～すること」などの文末処理をする。
 ⑥ 字数は指定数の 8 割[32 字]以上とする。指定字数に満たなかったり, それを超えた解答は 3 点減点。なお, 句読点も字数に含める。
 ⑦ 誤字・脱字・判読不能な文字はそれぞれ 1 点ずつ減点する。ただし, 同一の間違いは繰り返し減点しない。
- (2) less (2 点)
 (3) D (2 点)
 (4) E (2 点)
 (5) C (2 点)
 (6) C (2 点)
 (7) (あ) D (い) C (う) E (え) B [12 点(各 3 点×4)]
 (8) C, D [8 点(各 4 点×2)]

【総評】

I 期と比べて易しめなので, 時間的に余裕を持って取り組めたのではなかろうか。特に, 文法・語彙は基本的なことが中心に問われているので, 受験生は長文に時間が割けたことと思う。最低合格ラインは 75 パーセントほどであろう。

【各論】

1

- (1) E は第 1 音節。それ以外は第 2 音節。
 (2) D は第 3 音節。それ以外は第 2 音節。
 (3) D は[ou]という二重母音。それ以外は[a]。
 (4) D は[u]という短母音。それ以外は[u:]という長母音。
 (5) D は黙字で発音しない。それ以外は[p]。

2

- (1) be ashamed of ～ ～を恥じている
- (2) throw ～ up ～を吐く [= vomit]
- (3) I would prefer it if ～ ～だとよいのだが、～して欲しくないのですが
- (4) No matter who else objects, I do not. : 他の誰が反対しようとも、私は反対しない。
- (5) agree with 人 人(の体質)に合う
- (6) 仮定法過去の文。
- (7) 否定文 + Neither V S …もまた～しない
- (8) They told her that there were no tickets left.
⇒ She was told that there were no tickets left.
- (9) By all means 是非とも
- (10) “I’ ve never been so cold in my life.” “Then you’ ve obviously never been in New York this time of the year.” : 「人生でこんなに寒かったことはない」 「では、この時期にニューヨークには来たことがないのですね」

3

- (1) follow suit 先例にならう
fare 運賃
- (2) attach ～ to … ～を…に添付する
take a photo 写真を撮る
- (3) some toys for the children to play with
= some toys with which the children could play
* この場合の with は「～を使って」という意味。
- (4) have ～ in common ～を共有する
- (5) release ～を放つ
- (6) accuse A of B AをBのことで非難する
= attack A for B
- (7) in the long run 長い目で見れば, 結局は
alternative 二者択一, 代わるもの
There is no alternative to ～ ～に代わるものはない

4

- (1) 下線部の英文は「インフルエンザが流行った季節があっても、その季節を一度…見ただけだ」という意味。その具体的内容は、直後の第1段第2・3文を参考にまとめる。そこでは、インフルエンザ・ウイルスが「予測できない性質」を持ち、どの菌株も「それ自体のパターンに従う」こと、つまりその年ごとの独自のパターンを持つことが述べられている。なお、字数は指定数の8割[32字]以上とする。また、説明問題なので、解答文の最後に「～ということ」などの文末処理をする。
- (2) まず、空所の直後に than があるので比較級の語が入ると考える。そして、直前の第1段でインフルエンザ・ウイルスは毎年変わるので、予測したり備えることが出来ないと述べられていることを参考にする。そうすると、「インフルエンザに関しては、今日でも10年前ほどわかっていない」という文意にすればよいことがわかる。なお、ここで用いられる less は不定代名詞で「より少ないもの」という意味である。
- (3) この it は、直前のダッシュ(―)の前の節の主語である This を受けている。そして、これは第3文 ‘Every year … its own pattern.’ を受けている。つまり、it は文の内容を受けている。選択肢でこれと同じ用法の it を含むのは、D. 「一度人生で最大の障壁を克服したら、他のどんなことでも対処しやすくなる」である。それ以外の選択肢に関しては、A. 「このレポートを読んで、意見を言って頂けるのは可能ですか」と E. 「前もって予約しておいた方がよいだろう」は形式主語である。また、B. 「ジェーンが食事代を払ったのは昨日だ」は強調構文である。そして、C. 「たまたま素晴らしい天気だったので、彼らは海岸に行った」は天候を表す it である。
- (4) 空所の直前の第3段第1文で、インフルエンザは毎年やってきて、世界はパンデミックに襲われるのに、疫学者にはその流行の理由やメカニズムがわかっていないと述べられている。そして、空所の直後で「新たな菌株が現れた時、疫学者には頼るべき情報がほとんどない」ことが述べられている。この二つの文は因果関係になっている。したがって、空所には E. As a result 「その結果」が入る。
- (5) fall back on ～ ～に頼る [= depend on ～]
- (6) 第3段第4文「H1N1 が重病をもたらす時、患者は季節性インフルエンザに罹った患者とは違った合併症(治療がより難しい)を発症する」が、選択肢 C の内容に一致する。

- (7) (あ) 「インフルエンザ感染の正確なメカニズムは不明確である。それが主に空気によって感染するならば、脅威を与えるためには感染粒子はどれほど大きくなければならないのだろうか」
(い) 「仮にあるとしたら、手から手への接触はウイルスを伝染させるのにどのような役割を果たすのか」 なお、この文は(あ)を含む文が「空気感染」の可能性を問題としているのに対し、「接触感染」を問題としていると考えればよい。
(う) 下線部を含む文の後半のコロンの以降で、「フェイス・マスクと衛生対策がどのように感染を効果的に予防できるのか」と述べられている。これに合わせるために、前半を「インフルエンザはどのように拡がるのかを理解することは、2番目の領域のギャップを埋めるのに役立つであろう」とすればよい。
(え) 下線部の直前に「免疫反応」とある。したがって、「一旦感染した後、なぜある患者は他の患者よりもずっと症状が軽いのか」という文が続く。
- (8) A. 「Michael Osterholm は、インフルエンザに関しては多くの未解決の問題がまだあると述べている」 第2段第1文と最終文の内容に一致する。
B. 「疫学者はインフルエンザに罹った人たちのごく一部が重病になる理由をわかっていない」 第3段第1文の but 以下の内容に一致する。
C. 「疾病対策センターはH1N1の影響を計算する厳密な方法をすでに確立した」 第4段第1文では「新しい」と言っているが「厳密な」とは言っていない。したがって、一致しない。
D. 「現在のH1N1パンデミックは1918年の(インフルエンザの)発生よりも多くの死者をもたらした」 第7段最終文後半で、「とは言っても、全体的な死者数はこれまでの所はるかに低い」と述べられている。したがって、一致しない。
E. 「研究者は、インフルエンザは最近まで疫学の研究界において十分真剣に考えられていなかったと述べている」 最終段第1文の内容に一致する。
F. 「2005年にアジアで鳥インフルエンザが発生したことで、アメリカにおいてインフルエンザの研究が進んだ」 最終段最後の2文の内容に一致する。

【総括】

本年度の昭和大医学部Ⅱ期の問題でも私たちがやって来たことが正しいことが証明された。つまり、医療系英文を読むための背景知識をつけること、そして設問を解くための選択肢の判定技術と下線部和訳の添削作業である。